OMIYA MAIL NEWS
JR東日本輸送サービス労働組合
JTSU-E OMIYA 大宮地方本部
2025.07.28
No. 002
HOMEPAGE TWITTER

大会宣言

本日、JR 東日本輸送サービス労組大宮地方本部は、市民会館おおみや第 8 集会室において「第 6 回定期大会」を開催し、「共感」を基に創造した輸送サービス労組運動を更に飛躍させ、鉄道の安全性再確立と、相次ぐ不祥事の根絶をすべての仲間と共につくり出していくことを確認した。

2020年7月4日に結成された大宮地本は 5 周年を迎えた。「楽しく・真剣に・謙虚さを忘れず」をテーマに掲げ、職場の組合員の声を基に、職場から運動を創り出してきた。この5年間を振り返ると、「日光線の増発に向けた現地調査や街頭ビラ配布行動」「烏山線利用促進に向けた取り組み」「「武蔵野線の車内清掃」「乗務員基地再編成施策を通じた強制転勤撤回のたたかい」「中学生職業体験による営業列車への体験乗車」「面談内容の情報漏洩」「社友会と会社の不適切な関係」「『社員の皆さんへ』で JTSU-E を誹謗中傷した不当労働行為」、そして、戦後80年に行った「長崎平和研修」等々、組合員と共に、多くの運動を展開してきた。5周年を迎えた 2025 年は転換の年と位置付け、変化する社会情勢・会社の課題に真正面から向き合い、組合員一人ひとりの尊厳と生活の向上を追求し、5 年・10 年を展望し、組織拡大を各職場から実現していこう。

5 月 7 日「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方」の提案が会社から示された。提案内容は、職場を大きく混乱させると共に、落胆させた。多くの職場から怒りの声が上がっている。一方で、年功型賃金体系の維持や、年間休日数の増、第二基本給廃止、65 歳定年制実現や 55 歳以上の定期昇給の実施等の内容が反映された事は、輸送サービス労組がこだわって要求し続けてきた成果である。提案された施策から逃げることなく、よりよい施策を実現するには、対峙するだけでなく代替案を掲げ、交渉の場で現場の声・価値を示す必要がある。第一次解明交渉で明らかになった事実を基に職場から議論を巻き起こし、鉄道業という輸送サービス労働に相応しく、経験を重んじ、安全の定着が図られる JR 東日本を実現するために、第二次解明申し入れと「輸送サービス労組版人事・賃金制度」をつくり上げよう。

「安全は経営のトッププライオリティ」という言葉に反し、生活ソリューション事業に傾注したことで、事故・事象の連鎖が止まらず JR 東日本の安全が脅かされている。東北新幹線「はやぶさ・こまち」の列車分離や、新型車両 E8 系山形新幹線「つばさ」の補助電源装置損傷により、通常ダイヤの維持が困難になり、多くのお客さまにご迷惑をお掛けしている。新幹線の安全神話と信頼が、崩壊の危機に直面している。羽越線脱線事故、福知山線脱線事故から 20 年という節目の年だが、JR 東日本会社は当時の思いを忘れているのではないか。当時の JR 西日本は、成果主義型の人事・賃金制度を導入し、経営方針として「稼ぐ」を掲げた結果、痛ましい事故が発生してしまった。JR東日本は、コロナ化を経て、会社設立から初の赤字を経験し、「稼ぐ」ことに躍起になってはいないか。今回提案された人事・賃金制度は、まさに成果主義型そのものだ。さらに、在来線の「輪軸圧入力データの改ざん」や、グループ会社での「人件費水増し請求」や、「公正取引委員会からの警告」など、相次ぐ不祥事で企業ガバナンスは崩壊している。大宮支社管内でも、SharePoint アプリ内に、異動への意識づけのやり取りが半年にわたり公開される「コンプライアンス違反」が発覚している。私たち大宮地本は、労働組合として「経営のチェック機能」の役割を果たし、引き続き地域と社会から必要とされる JR 東日本をつくり出すために、すべての仲間と共に声を上げ続けていく。

結成以降、誰一人離脱することなく共に運動を推し進めてきた。これは、輸送サービス労組に結集した仲間との絆や繋がりがあり、異動を経験しても屈せず職場活動を原点に運動を続けてきたからだ。また、地域連帯で日光線の朝の通勤時間帯の増便を勝ち取り、烏山線沿線でのポール de ウオーク開催で地域との繋がりを大切にしてきた。地域共生を掲げる JTSU だが、これからも地域の皆さんと共に、健全な JR 東日本をつくり出していく。そして、「共感」を基に輸送サービス労組運動を更に推し進め、安全・安心と働きがいを実感できる職場をつくり出し、組織強化・拡大をすべての仲間で実現しよう。

以上宣言する。

2025 年 7 月 28 日
JR東日本輸送サービス労働組合
大宮地方本部
第 6 回定期大会

大会宣言を満場一致で採択！